



媚薬囃子



「媚墨」
びぼく

という墨がある



書道家黒墨流に
代々伝わる
秘伝の墨だ

この墨で作る

墨汁を

びやくぼくじゅう
媚薬墨汁と呼び



びやくぼくじゅう
媚薬墨汁で
きこう
揮毫する書は…

お願い…

※「揮毫」毛筆で文字を書くこと
きこう

く、
くろずみ
黒墨くん…

裸身

や、
やめて







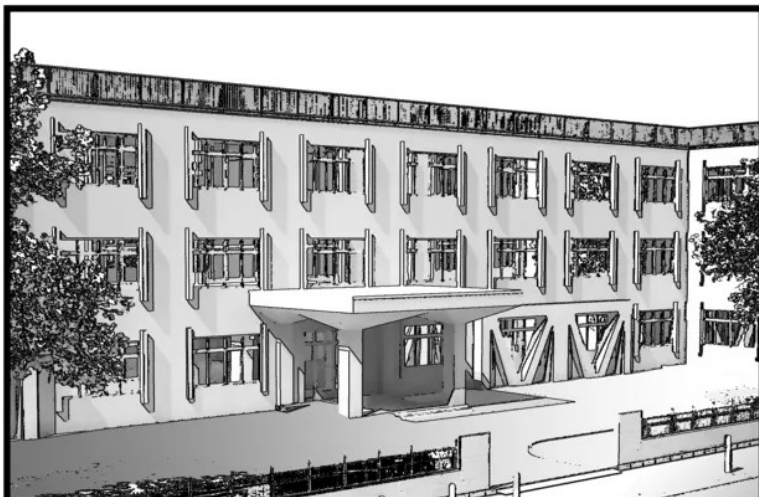


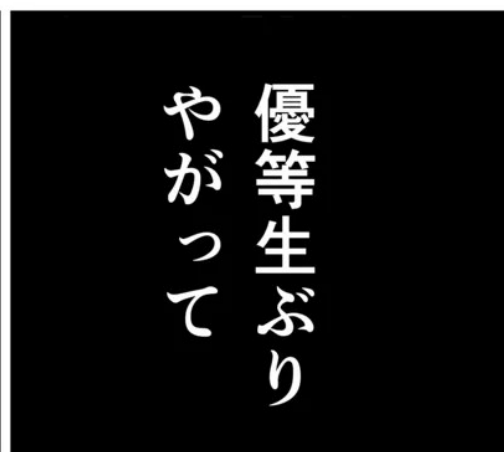
関

肉

体

体









かみしろことは
紙城琴葉

それが
私の…「夢」

承認欲求の
塊じゃねえか

結果が
楽しみです

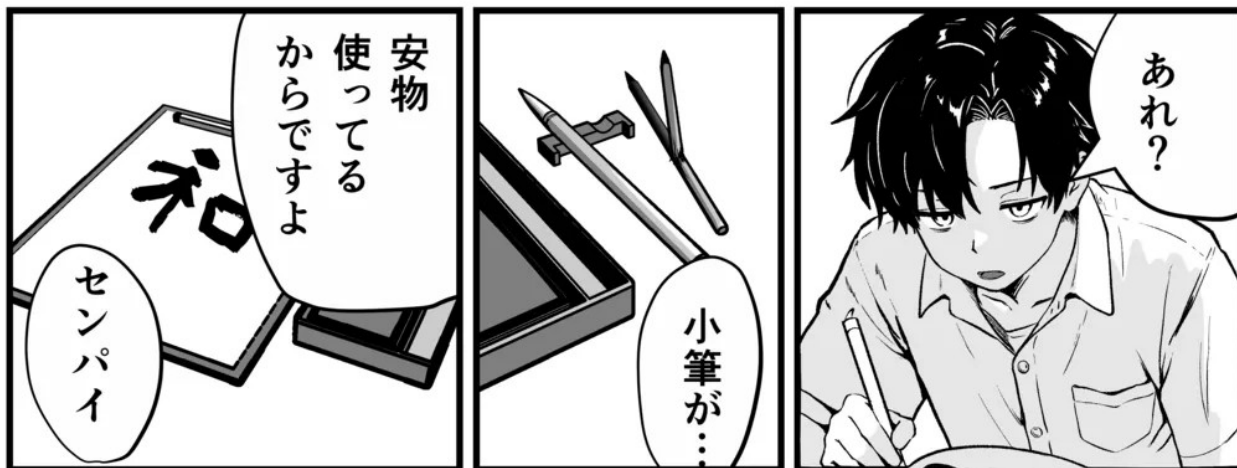
その夢は
もうすぐ
叶いそうね





俺の字は
これだ

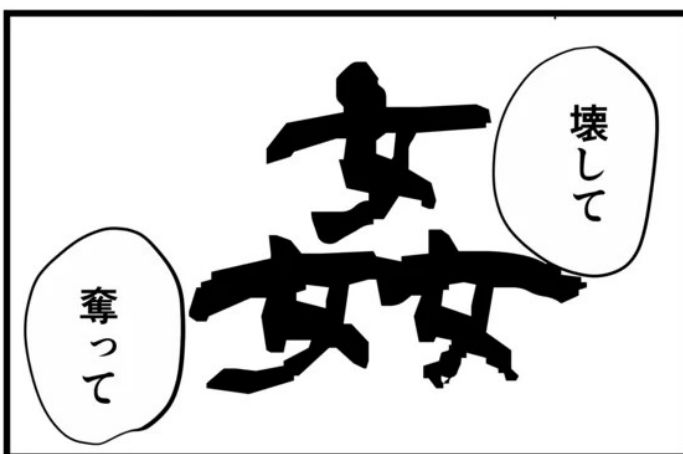


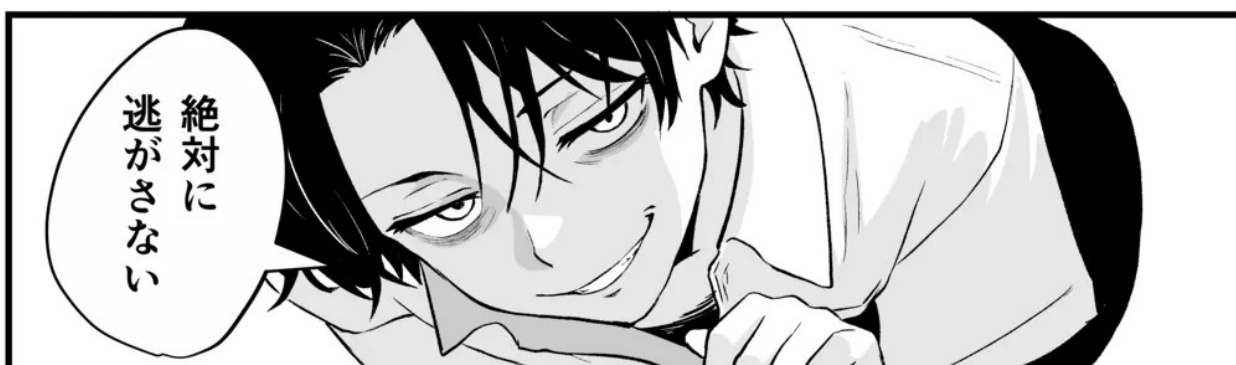
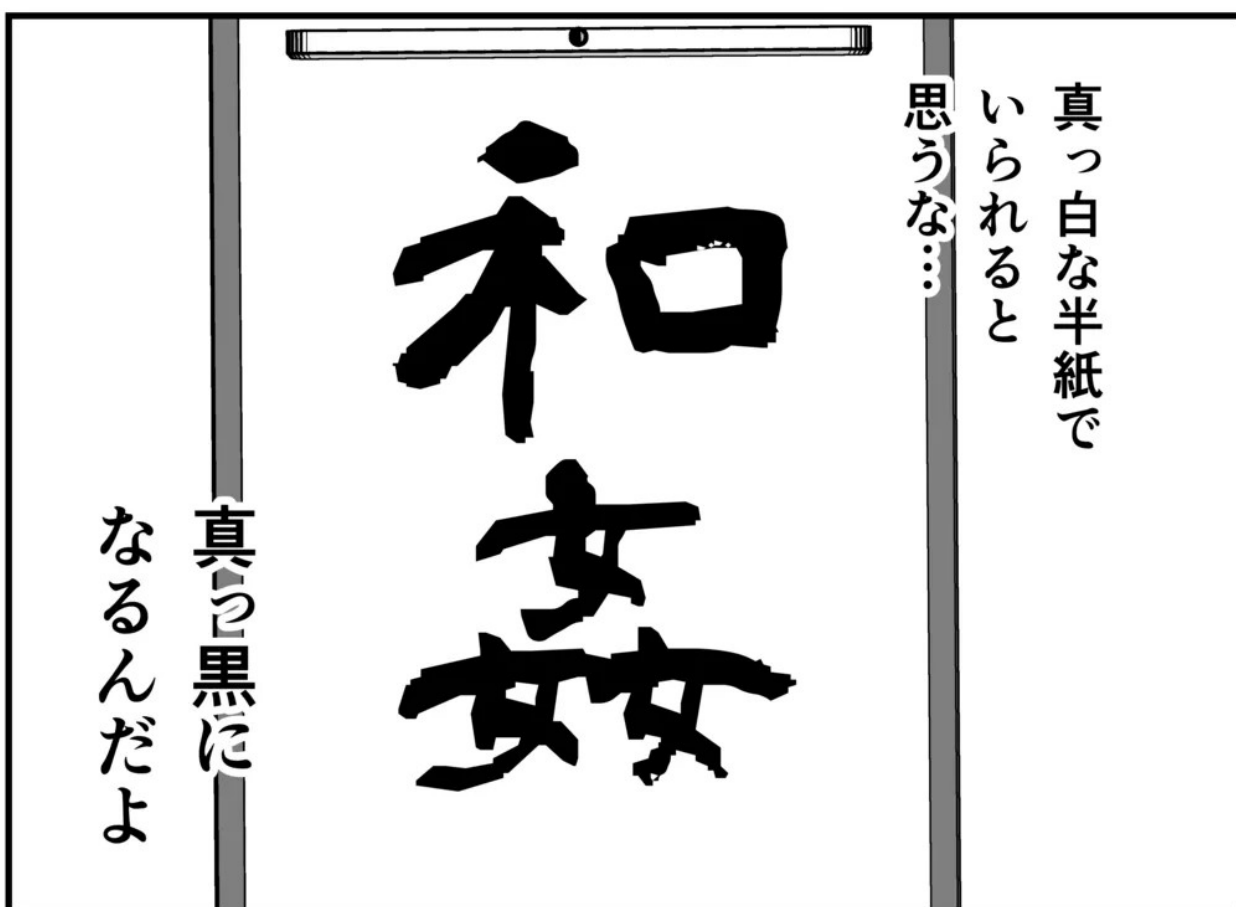












媚藥墨汁



書道部三人娘が

俺を雑魚扱っ

たので

禁断の墨で

全員

メスに――おす



媚薬墨汁

書道の宗家、黒墨流こくぼくりゅうには、代々、門外不出とされる墨が伝わる。

その名を——媚墨びぼく。

媚墨びぼくを磨りて得る墨汁は、媚薬墨汁びやくぼくじゅうと呼ばれ
古くは宮中に仕える文人や歌人のあいだで
“心を動かす墨”として珍重された。

恋の歌に託された想いを、ただの言葉ではなく
“力”として伝えるために。

百人一首に詠まれた幾つかの恋歌——
その筆跡には、この媚墨が使われていたと囁かれている。

源氏物語の写本にも、光の君が想い人に宛てた手紙の墨が
ほのかに香を帯びていたとの記録が残るという。

媚薬墨汁びやくぼくじゅうで書かれた文字は、読む者の心に滲み、
知らず知らずのうちに感情のかたちを変える。

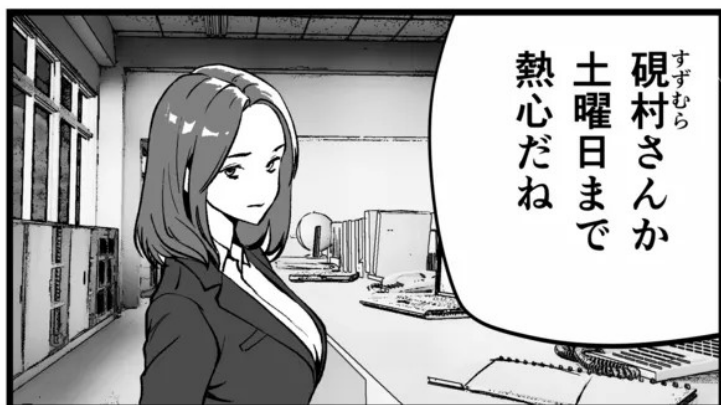
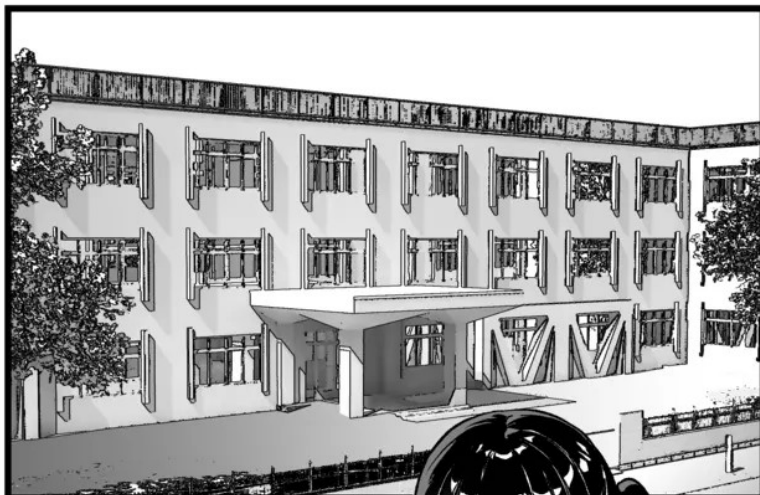
それは筆が語る恋、墨が囁く幻。

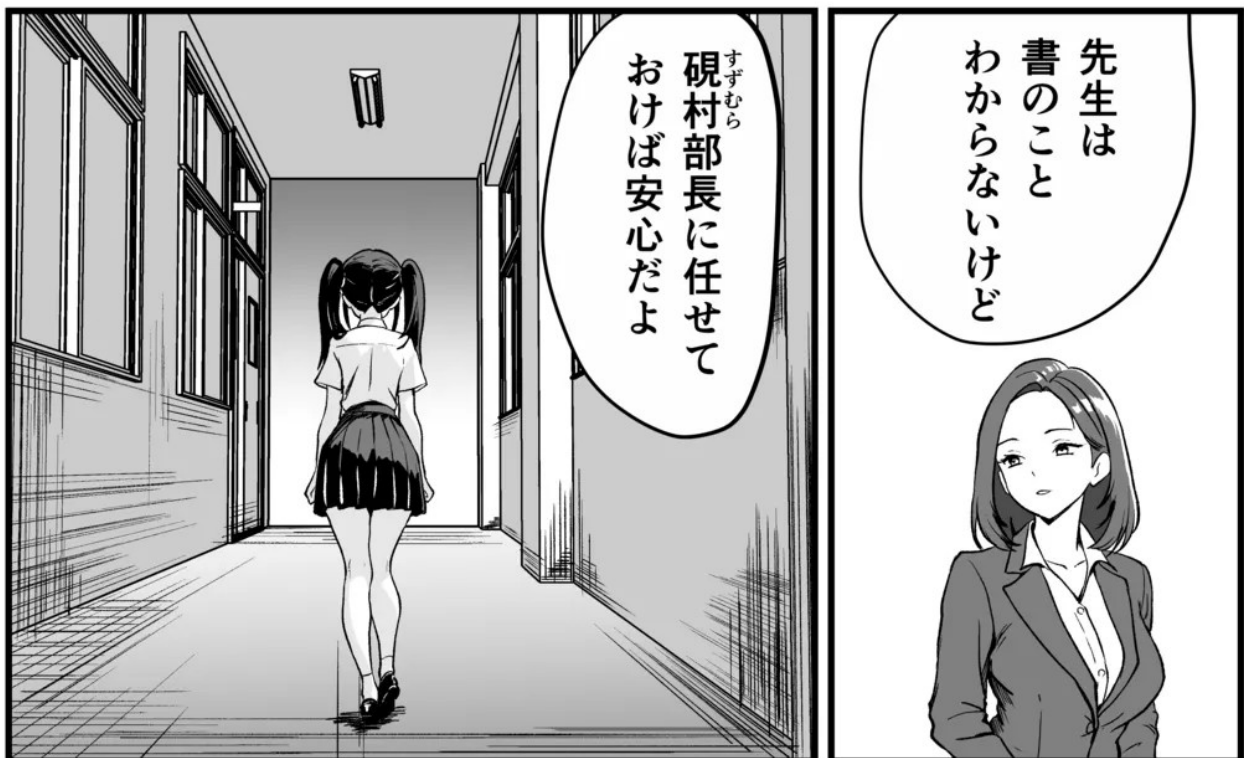
黒墨流こくぼくりゅうの古記には、こう記されている。

「媚墨びぼくの線は、言の葉を越え、心を結ぶ。
書とは、恋より深き黒、愛の闇にて残る影なり。」



失礼します









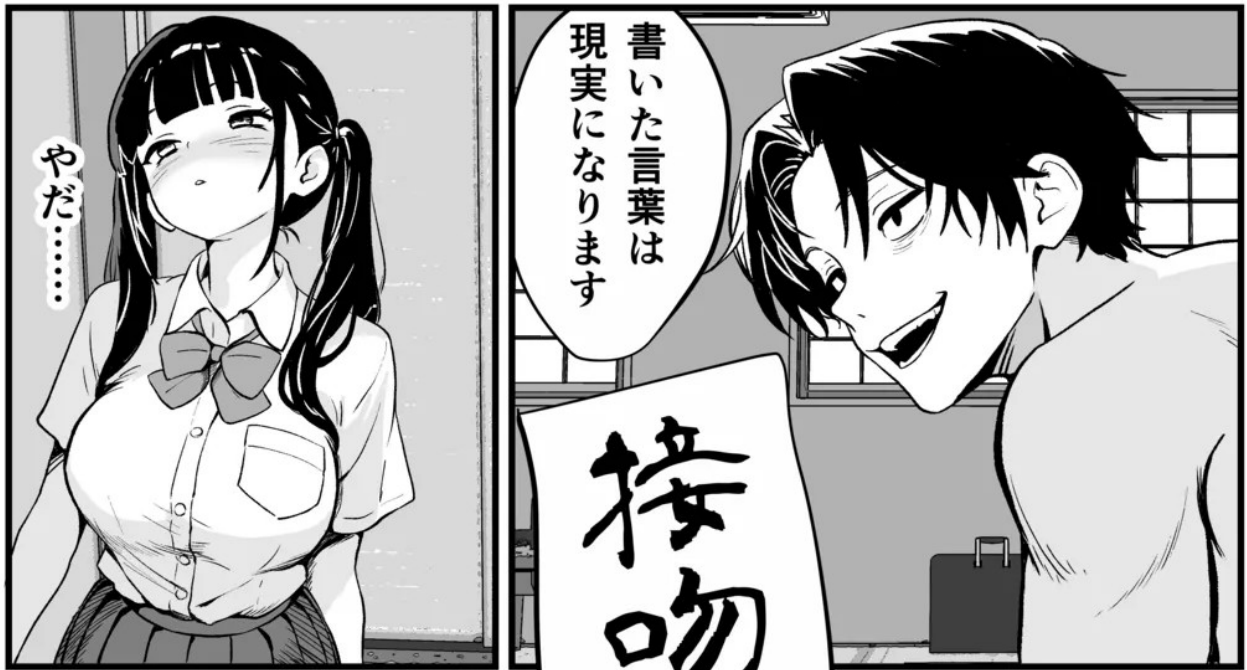


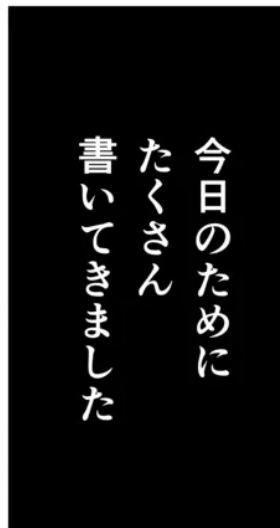
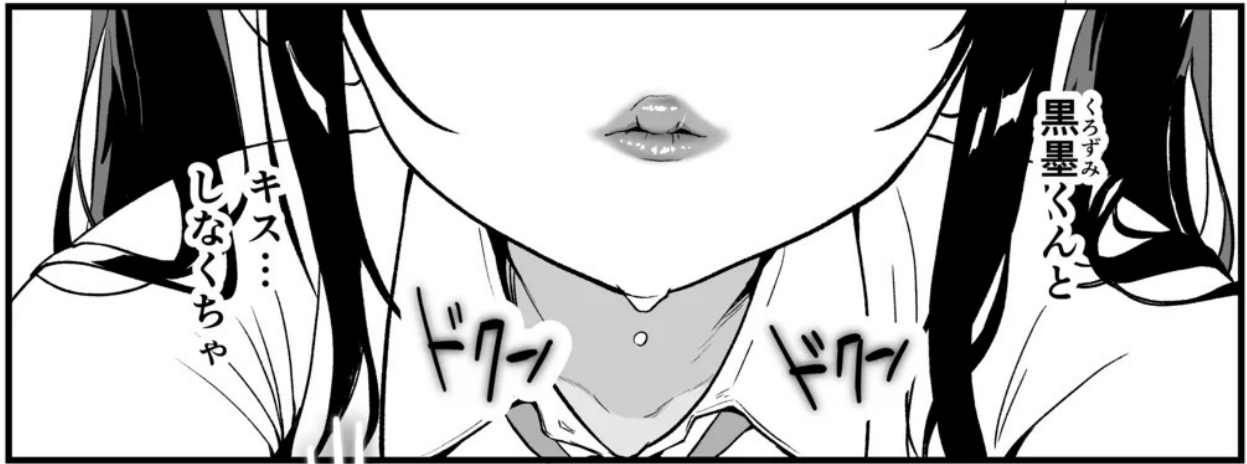














私が
従うワケ…

そんな
馬鹿げた字で



ないじゃない

脱衣



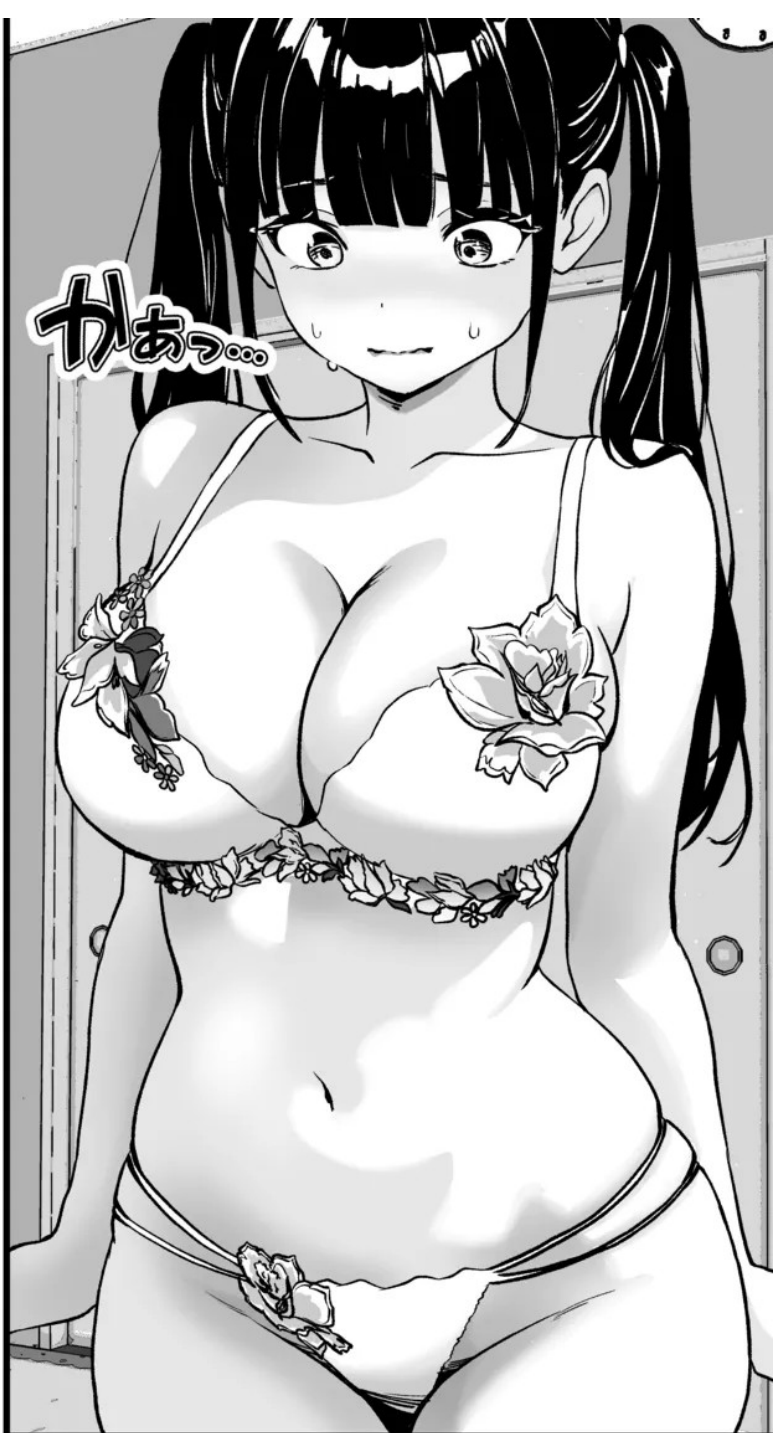
……っ、ちが…お
いつもはこん…



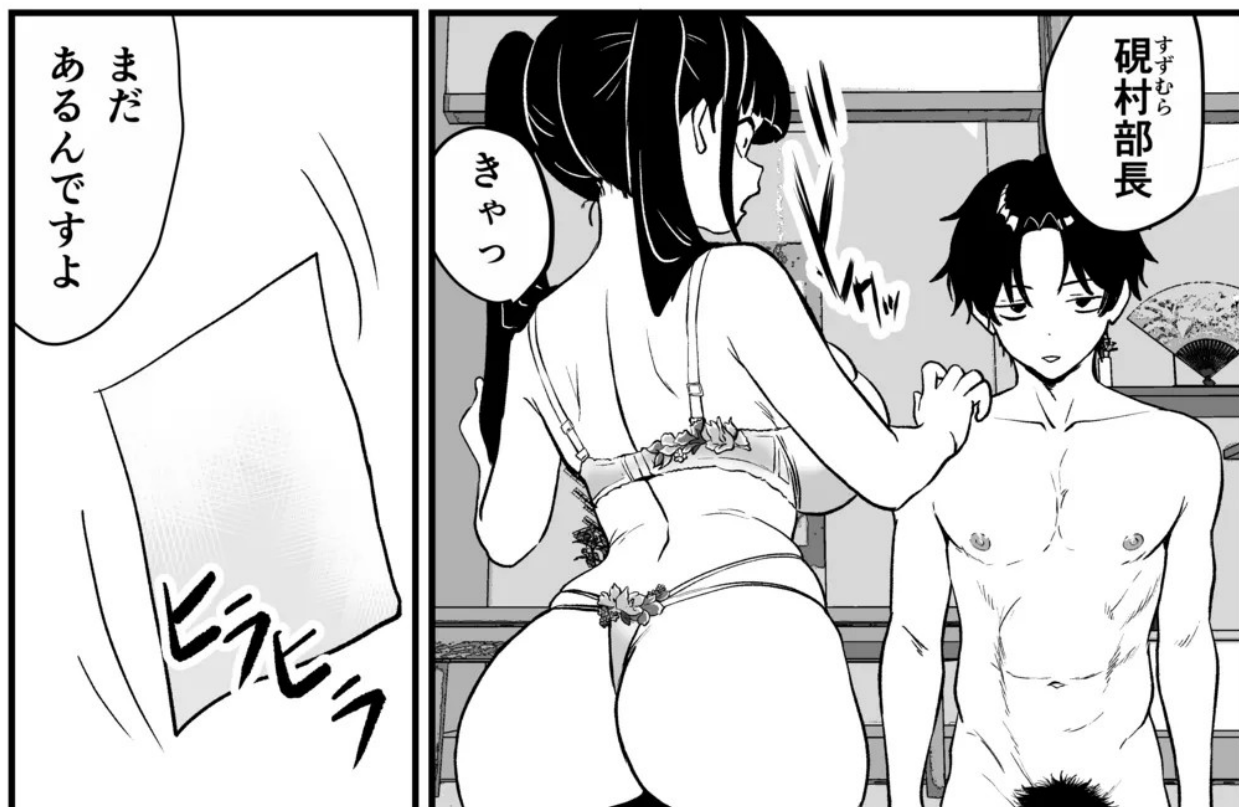
さすが
すずむら
硯村部長

優等生は
そんな下着が
好きですが

いー









優等生は
筆の扱いも
お上手ですね

ちゅるっ♡



なんで
私が……っ！

くっ……！

ちゅるっ！

P.t. 4



これが
びやくほくじゅう
媚薬墨汁の
力です

ぐぐっ

ちゅるっ



さすが
すずむら
硯村部長

口淫



誠実

先生の前では
優等生

書道部部长を
ひきうけて



内申書のため
推薦のため

点数稼ぎ

裏では
俺をイジめる

かぶん♡



ちが……う
私は……！



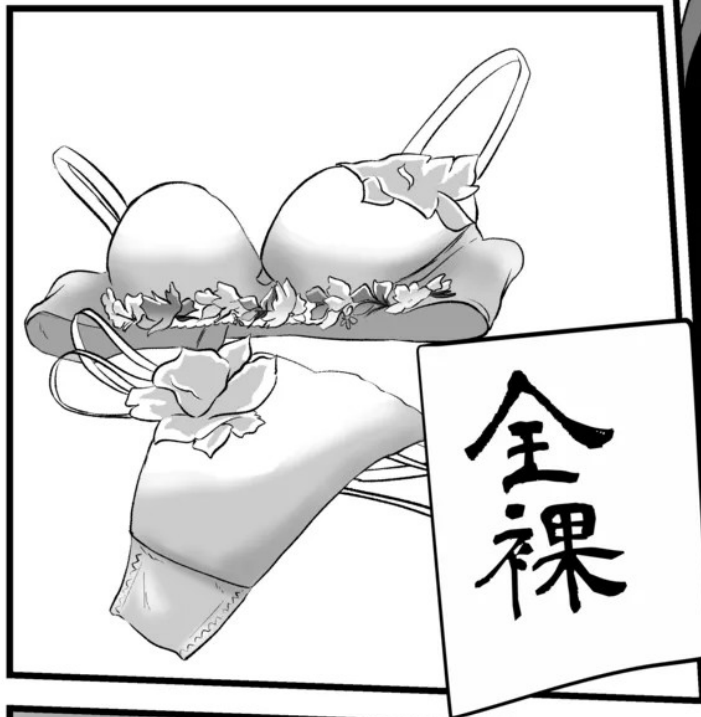
品行方正な
優等生は
表の顔

本当は



腹黒
優等生

仮面が……
剥がれてく……



本当の
私…

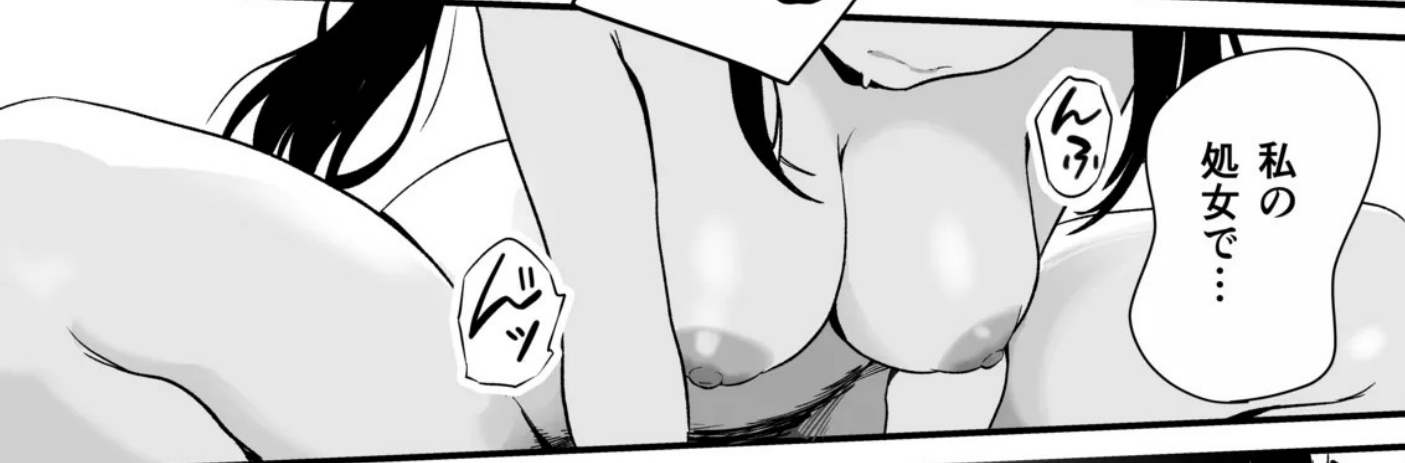


書道部員が
童貞なのは
由々しき問題です



男子部員が
童貞なんて

…ダメよ















杭打

こんなに
腰を動かして

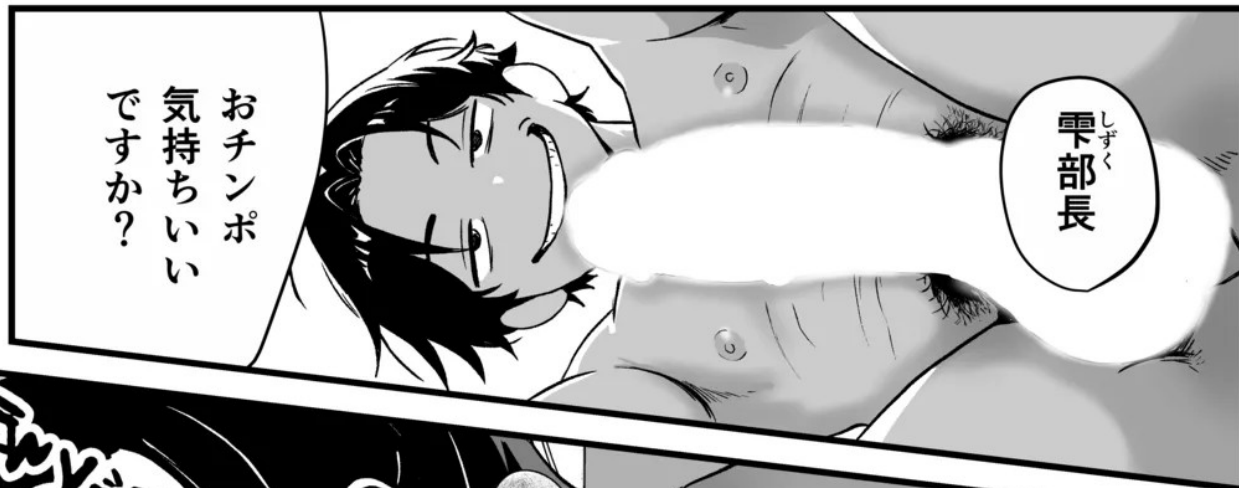
何
言ってる
んですか

俺のチンポで
よがって

ここ
部室ですよ

しずく
準部長が

こんな
ドスケベだなんて
知りませんでした



しずく
栗部長

おチンポ
気持ちいい
ですか？



おっ
おっ
おっ

後背位

おっ
おっ
おっ



俺は
気持ちいいですよ



気持ちよく
なんかない

もっ
もっ
もっ





気持ちいい

どうなってもいい

うん

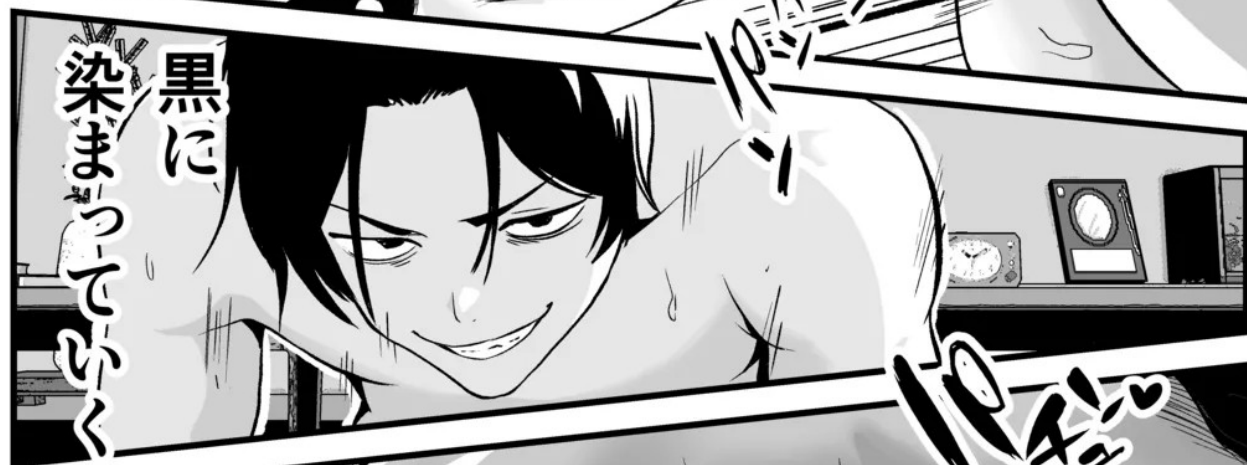


俺のチンポ

栗部長
そんなに
いいんですか？

心と体が…

おちんちん
気持ちいの



黒に
染まっつていく



もっと
してえ

黒墨くんの
おちんちん…



あんなに
俺を
嫌っていたのに

ド変態
ですね
しずく
零部長

